

恵那市教育研究所だより

令和4年 No.272

12/16

えな

『子どもの声』



日々の保育の中で、子ども達の言葉や仕草に大笑いしたり、感心したり、時には考えさせられることがたくさんあります。こども園は0歳児から5歳児が生活

していますが、入園当初は言葉を発することのできない年齢の子も家族や友達、保育者などのかかわりを通して次第に言葉を覚え、言葉のやり取りを楽しめるようになります。

まだ言葉で表現できない子には、どの先生も仕草や表情から気持ちを読み取り、「こう言いたいのだろうな」、と察しながら代弁していますが、それぞれの年齢や時期で、「こんなふうに考えるのだな」と成長を感じる場面があります。

4月、まだ言葉数が少ない要支援児のA君は、年下の年少児が入園当初に泣いている様子を見つめながら、「泣かない」「泣かない」とつぶやいていました。A君の表情から、泣かないで、と伝えたい様子がうかがえ、自分のことで精いっぱいだったA君に人の気持ちを読み取る心が育っていることに嬉しくなりました。

未満児クラスでも、途中入園したばかりの0歳児が泣いていると、4月から入園している1歳児が近寄って肩を優しくたたいて慰めるような姿がありました。こんなに小さくても相手の気持ちに気付いて、思いやるような行動に感心しながら「ありがとうね。僕もそうだったもんね。わかるんだね。」などと声をかけ、スキンシップを取ります。

少しずつ言葉が出てきた1歳児が園庭の花を指さし「きえ～（きれい）」とつぶやいたり、2歳児の中には、戸外の風を受けて「先生！おいで～気持ちいい～」と感じたことを伝えたりする子もいました。年少児クラスでは、みんなで大切に飼育していた青虫の体



「自画像」
岐阜県美術展 最優秀作品
恵那東中学校 二年 洞田 奏

明智こども園 鰐部 靖子

に傷がついてしまうと「かわいそう」「ばんそうこう貼ってあげよ」なんて心配している会話もあり、微笑ましい場面でした。

4、5歳児になると鉄棒や縄跳びなどに挑戦していますが、繰り返し頑張ろうとしながらも、なかなか出来ずに諦めそうになる姿を励まし、ようやく「出来た！」に立ち会い、喜びを共有できることは本当に嬉しい時間です。先日も年長児に「見とると勇気が出るで」と言われ、「ちゃんと、見とるでね」と練習を見せてもらいましたが、こうした子ども達の感情を受け止め、気持ちに応答することで、自分の思いをどんどん表現できるような日常を積み重ねたいと思っています。

ついつい言葉をかけ過ぎてしまい、子ども達が考える前に先取りして余計な言葉をかけてしまい反省することがあります。あの場面ではこんな声を掛ければよかった、もう少し待っていればよかったのかな…などと迷うこともあるのですが、子ども達の思いに寄り添うことで、わかっていてくれるという安心感を心の根に与え、自己肯定感や意欲につなげられたらと思います。

また、園外保育に出掛け、休耕田の斜面滑りや川遊びなどの自然に触れながら体を使う経験を保育に取り入れていますが、「楽しい～！！」「明日もやろ～」「ここにこども園作ればいいに」等と嬉しそうな声が聞こえます。生き生きとした表情や心の声の出てくる実体験を増やしたいと思います。

倉橋惣三「育ての心」より…「お世話になる先生、お手数をかける先生、それは有難い先生である。しかし有難い先生よりも。もっとほしいのはうれしい先生である。そのうれしい先生はその時々の心もちに共感してくれる先生である」…自分も嬉しい存在になれるよう心に留めながら、言葉豊かに子どもの声を聴ける保育をしていきたいと思います。

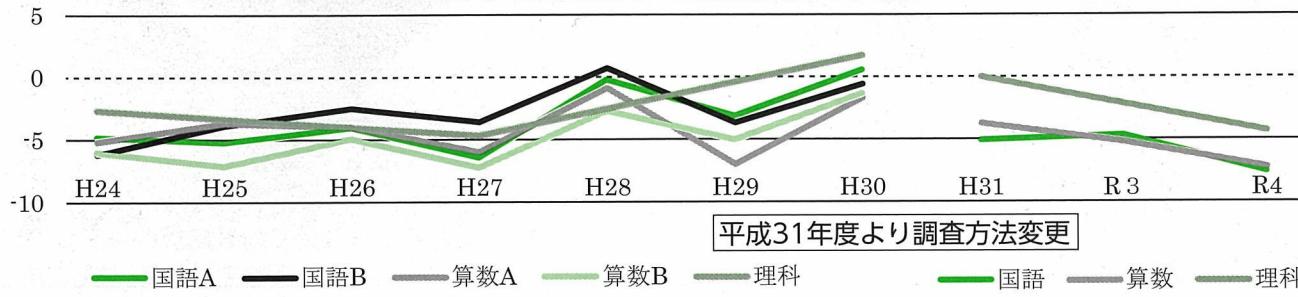
特

集



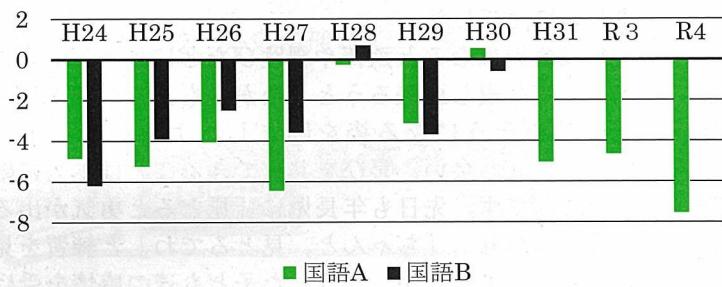
令和4年度 恵那市 全国学力・学習状況調査経年変化(小学校)

全国平均正答率と恵那市との差

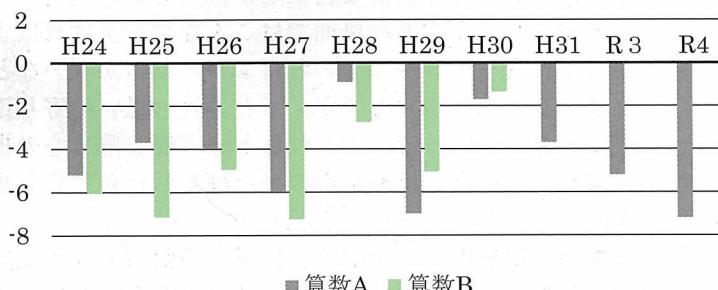


平成31年度より調査方法変更

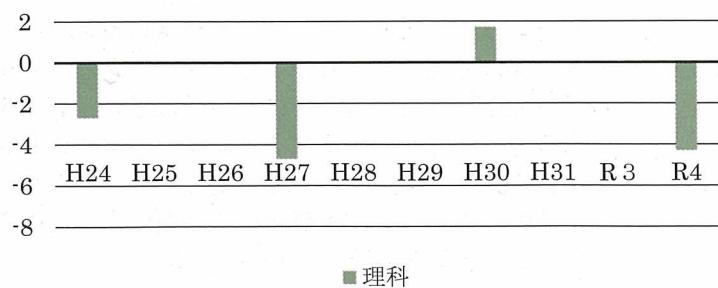
恵那市から見た全国平均との差 (小学校国語)



恵那市から見た全国平均との差 (小学校算数)



恵那市から見た全国平均との差 (小学校理科)



小国

県及び全国との平均正答率を比較すると、県とは6ポイント、全国とは7.6ポイントと、大きく下回っています。学習指導要領の領域別及び問題形式で見ても、全ての項目で県、全国の平均を下回る結果となっています。

学習指導要領の領域別では特に、『知識及び技能』の内容や、『「思考力、判断力、表現力等」のB書くこと』において課題が見られました。

小算

算数科において恵那市では、調査開始以来、全国の平均正答率を下回る結果が続いています。本年度も、全国平均より7.2ポイント低く、その傾向は継続しています。

学習指導要領の領域別に見ると、「数と計算」と「データの活用」は、正答率が高いのに対して、「変化と関係」については正答率が低いです。評価の観点においては、「知識・技能」を問う問題については、比較的正答率が高いのに対して、「思考・判断・表現」を問う問題の正答率は低い値を示しています。全国と比較しても8.7ポイント低い状況です。

小理

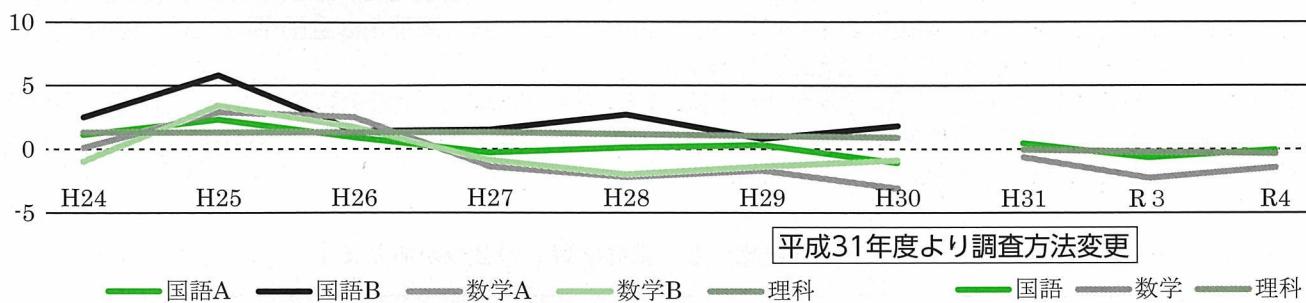
平成30年度は全国の平均正答率を上回る結果になったものの、本年度は、全国平均より4.3ポイント低くなっています。

正答数集計値の内訳を見てみると、全国平均正答数13問前後の児童の割合は、全国と大差はありません。また、平均正答数より低い正答数の児童の割合も全国とさほど差はありません。

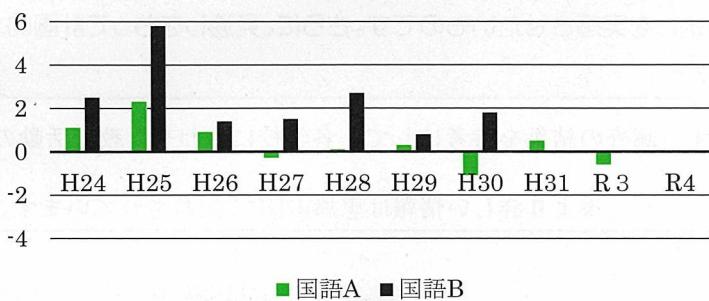
学習指導要領の領域別に見ると、すべての領域において、全国及び県の正答率を下回っています。その中で、「生命」については全国の平均正答率に若干近づいているものの、他の領域については4.5~6.8ポイント下回っています。特に、短答式及び記述式の問題形式についての正答率について、全国の平均正答率より低い値を示しています。短答式の解答の無解答についても全国の平均正答率に比べ、10.2~16ポイント8%低い結果となりました。

特集 令和4年度 恵那市 全国学力・学習状況調査経年変化(中学校)

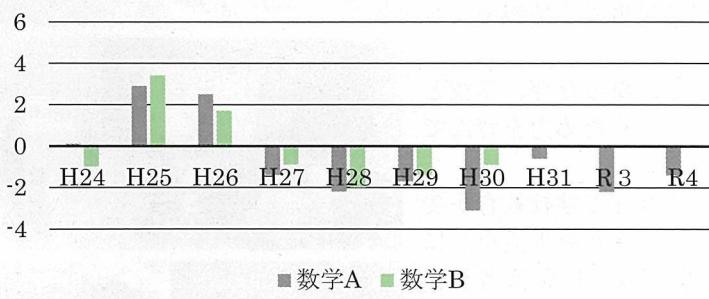
全国平均正答率と恵那市との差



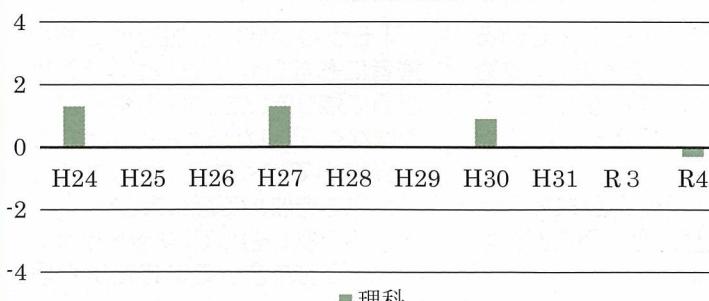
**恵那市から見た全国平均との差
(中学校国語)**



**恵那市から見た全国平均との差
(中学校数学)**



**恵那市から見た全国平均との差
(中学校理科)**



中国

平均正答率の差を見ると、全国との差は無かったが、県との差は昨年度と同様、1ポイント下回っています。

学習指導要領の領域別、評価の観点別に見ると、特に「思考力、表現力、判断力等」である「話すこと・聞くこと」、「読むこと」において県と差が開いていることが分かります。

中数

全国との平均正答率の差を見ると、1.4ポイント下回っており、その内訳は、正答率の高い生徒の比率がやや低く、他はほぼ同等の結果となっています。

学習指導要領の領域別では、「データの活用」において全国の平均正答率とほぼ変わらない値を示していますが、他の領域においては、いずれも1ポイント以上下回っています。評価の観点では、「思考・判断・表現」に弱さが見られます。「記述式」においても県や全国との差が見られます。以上のような実態を踏まえると、本市では、例年と変わらず、「知識・理解」を活用し、「思考力・判断力・表現力」を養うことが大切となってきます。

中理

今年は全国との差は-0.3ポイント、全国をやや下回る結果となりました。

正答数集計値の内訳を見てみると、全国平均正答数13問前後の児童の割合は、全国と大差はありません。また、平均正答数より低い正答数の児童の割合は全国と差はありません。つまり、恵那市では、多くの児童が全国平均に近い力をつけていることが伺えます。ただし、平均正答数より高い正答数の児童の中で最上位に位置する児童の割合については、全国に比べて低くなっています。

学習指導要領の領域別では、「粒子」「生命」領域において全国の平均正答率を1.3ポイントほど上回っていますが、「エネルギー」「地球」の領域においては、0.5~2.2ポイントほど下回っています。

評価の観点では、「思考・判断・表現」に改善傾向が見られました。しかし、「記述式」や「短答式」についての正答率はやや改善傾向がみられました。

児童生徒質問紙より

県や全国と比較して数値が高かった項目として、「ICTの活用」と、「地域の行事への参加」の2つがあります。

「ICTの活用」については、小・中学校とも全国・県を大幅に上回っており、各校でICTを活用した授業改善が積極的に行われていると考えられます。本質問以外のICTに関する質問においても、恵那市は全国・県を上回る傾向にあり、授業の様々な場面での活用が進んでいることが分かります。

「地域行事への参加」も同様に、全国・県を大きく上回っています。地域には、地域の特色を生かした大切な行事やお祭り等が残っています。これらに参加し、その意義を知っていくことは、恵那市の教育の重点の一つである「郷土愛」を育んでいくことにつながります。

一方、数値が低かった項目として、「自己肯定感」と「家庭学習」の2つがあります。

「自己肯定感」については、「自分にはよいところがある」という質問について、恵那市は例年全国・県に比べ、小・中学校とも低い傾向にあります。この質問は、質問内容の関連性及び小学校・中学校の児童・生徒の回答状況から、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という質問との間に相関関係があると想定されます。子どもたちは、ほめられることで自分のよさに気づき、学習にも前向きに取り組むことにつながっていきます。

「家庭学習」については、家庭で学習をしている時間が全国・県と比較して少ない傾向があります。地道に努力をして力を付けることを大切にし、こつこつ努力することのよさを実感させたいものです。さらに、見通しをもって計画的に学習をすることも、着実に付けるために必要になります。

以上が今年度の恵那市の全国学力状況調査の結果です。調査の結果を参考にして、各学校に合わせた教育活動の工夫に生かしていただきたいと思います。

※より詳しい情報は恵那市HPに記載されています。

特



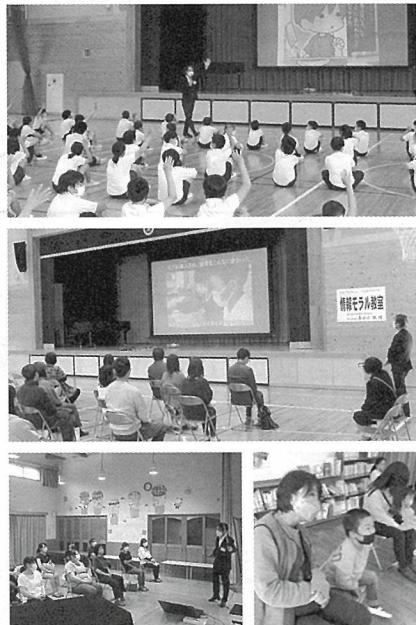
恵那市 情報モラル教室

恵那市教育委員会では、今年度、市内のこども園児、小中学校の児童生徒、保護者に対して、ICT教育総括相談員である長谷川満先生の「情報モラル教室」が、4月から11月まで40回行われました。

学校の教育現場でも、ICTが当たり前に活用されるようになった今、学校と家庭とともに子どもたちに安心安全なネット社会を生きていくため力を育んでいくことがねらいです。

今年度は、該当校の子どもたちの実態を交えながら、「ICTで学校教育が変わる」「ICTの便利さと深刻な問題」「ICTを正しく使って幸せな生活を」についてお話をありました。子どもには子ども目線で、保護者には保護者目線で、具体的なデータや分かりやすい映像を使った45分間の情報モラル教室でした。

親子で、「使う側のモラルについて」そして「ネットの危険について」話し合うきっかけを作る大変有意義な時間でした。



保護者からの感想より

ゲーム依存症は怖いと思いました。

便利な面がある一方で、使い方を間違えれば、自分や他人を傷つけて、取り返しがつかないこともあるということを知りました。親子でしっかり約束を決めて上手に使っていきたいです。

うちの子が上手に使っているか判断材料になりましたし、改めてICTが世界とつながっている怖さを子どもに伝えることの大切さを痛感しました。

子どもの判断能力が未熟なうちは、親の責任だということを強く感じました。

「モラルが低いと加害者にも被害者にもなりやすい」という言葉が心に残りました。ネット依存だけではなく、これからどんどん大きな世界に出ていく中で、モラルをもつ大切さを改めて感じました。

家族で話し合って、ネット社会にしっかり向き合っていきたいと思いました。



「やってみたい」がふえる毎日を願って ～身体を使ったあそびを通して～

武並こども園

武並こども園は、市の中心地に近いこども園ですが、近くに太霧道という里山の会の方が整備している森があり、自然にあふれた園です。

子どもたちが、笑顔で自主的に毎日を過ごすにはどのようなことが大切かを考え「やってみたい」があふれる毎日を願ってというテーマで、職員が子どもたち一人一人に寄り添い、子ども達から「やってみる」「やってみたい」という言葉が出る保育を心がけています。

1. 朝活動の中で

登園するとすぐ子ども達は、思い思いの遊びを始めます。春から今まで虫取り網を持って外へ走りだす子、みんなで行った「しっぽとり」「鬼ごっこ」がやりたくて、友達に声をかける子、砂場へ一目散に走って行く子、固定遊具で雲梯、鉄棒を頑張る子などなど。登園してから一時間ほどの子ども達が自分のやりたいことをとことんやる時間を保証して、自分から遊びを見つけ遊んでいます。その時間の子どもの様子を見ながら、保育士は、次のあそびの提供を考えていく良い時間となっています。



2. 運動遊びの中で

昨年やっていた伝承遊びを楽しんだり、年長児がやっている遊びを朝活動の時間に入つて遊んでいる子どもたちを見て、クラスで取り組んだり、その時々を大切にして遊びを保育士から提供しています。一人一人のやりたいことの時間を保証しながら、集団も意識し全員で遊ぶ時間も大切にしています。やりたくないことも一度は経験する。「やってみようとする。」ことも大切にしています。そんな保育の中、少しずつですが、やりたいことを自分から提案する子どもが増えています。



3. 自然の中で

冒頭に太霧道を紹介しましたが、歴史的にも謂れのある森で、毎年地域の語り部による「太霧道の話」を年長児が聞きます。みんなが散歩する場所に昔々洋館が建っていた、大勢の人が自分たちの町に来ていた話を聞き目を丸くして興味を持つ子ども達。洋館の建っていた場所を見上げるようにみたり、まだ、名残で残っている「石門」のことを聞き「行ってみたい。」「見てみたい。」との子どもたちの要望ですぐに歴史散歩をしたりしたこともあります。太霧道は、子ども達の散歩コースで、天気の良い日は散歩に出かけます。広場もあり飛び石を渡りじゃんけんしたり、草花を摘んだり、アリの巣を見つけたりどの子も「また行きたい。」「明日も行こ。」と自然の中でいろいろな体験をして、「やってみたい」があふれる場所になっています。

これからも、子どもたちが自分から「やってみたい」の言葉がたくさん出るように、保育を考えて行きたいと思います。



地域の方より
「太霧道」の
お話を聞く年長児

「石門」
見上げる高さに
みんなびっくり！



あるがままにプレーする正直さ

恵那北中学校 校長 可知 浩幸



今から20年前の2002年度に公立学校の完全週5日制が始まり、中学校の授業総時数が70時間削減されました。必修教科の時数が大幅に減り、選択教科等の時数が増え、隔週土曜日に出前のカツ丼を食べて部活指導することも完全になくなりました。いわゆる“ゆとり教育”的時代です。

そんな当時、隣がゴルフ場という恵まれた環境の中学校に勤めていた私は、2時間続きの選択体育の授業(全70時間)で、ゴルフを担当していました。私は、このゴルフほど「学びに向かう力、人間性等」が問われる競技は他にないと思っています。

ゴルフ規則の1には、規則の目的が書かれています。

- ・コースはあるがままにプレーし、球はあるがままにプレーする
- ・規則に従い、ゲームの精神でプレーする

・規則に違反した場合は、マッチプレーの相手やストロークプレーの他のプレーヤーたちより潜在的な利益を得ることがないように自分自身で罰を適用する責任がある

他の競技との大きな違いは、審判がジャッジするのではなく、自分自身がジャッジするところです。この自分自身に規則を適用するという特性から、プレイヤーに一番求められていることは“あるがままにプレーする正直さ”なのです。ナイスショットがピンに当たってグリーンオーバー、カップにけられて3パット、そしてたったひとつのOBで、簡単にスコアを崩していく自分を、「おまえはまだまだだなあ」とゴルフはいつも教えてくれます。ゴルフ道は教育に通じているのです。



令和4年度

夏休み 恵那市児童生徒の科学作品展審査会・読書感想文審査会 東濃地区社会科課題作品審査会結果

恵那市科学作品展

(敬称略)

審査結果	題目	学校名	学年	氏名	備考
優秀賞	あおさがおとゅうがおのちがい	東野小	1	にしお いおり	三好学賞
	トンボをおいかけて夏休み2 ~今年はヤゴもおいかけて~	長島小	2	山田 そうすけ	
	光佑のアゲハチョウとモンシロチョウのえっとうのけんきゅう	大井小	2	くろやなぎ 光佑	
	かまさりの成長きろく たんじょう~羽化まで全113日間のきろく	大井小	3	藤井 海翔	
	続・2ひきの女王あり クロヤマアリ	大井小	3	河合 るりの	
	土砂災がいに強い土、どんな土?	武並小	4	鈴木 康介	
	カイコのかんさつと研究	明智小	4	堀 韶太	
	お茶の研究	長島小	5	須田 茉莉香	三好学賞
	おじいちゃんの山の葉っぱ	三郷小	6	市川 遥也	三好学賞
	ヘボの観察【ヘボが食卓に並ぶまで】	串原小	6	安藤 摩斗生	
	僕のカナヘビ9 2022夏 屋外スペースにおけるカナヘビの生態と赤い卵の中の生命	恵那東中	中3	奥山 草平	

読書感想文コンクール 恵那市作品審査会

(敬称略)

審査結果	感想文の題名	書名	学校名	学年	氏名
優秀賞	生きもののいのち	おすしやさんにいらっしゃい!	上矢作小	2	中ね はるさね
	ブロックが気になってもいいんじゃない	すうがくでせかいをみるの	大井第二小	2	澤部 迅人
	「みんなのためいき図鑑」を読んで	みんなのためいき図鑑	東野小	3	伊藤 誠真
	ドアを開いたその先へ	しゅくだい がっこう	明智小	4	成瀬 一歩希
	りんごの木を植えて	りんごの木を植えて	長島小	6	井伊 一翔
	生きもののいのちをいただいてぼくは生きている	捨てないパン屋の挑戦 しあわせのレシピ	上矢作小	6	中根 そうき
	私をかえた夏	夏の庭 The Friends	恵那北中	1	樋田 妃南
	「二十三番目の提案」	世界を平和にするためのささやかな提案	恵那西中	2	河村 はな

なお、社会科課題追究学習作品展につきましても、今年度恵那市では、小学校14名、中学校15名、合計29名の参加がありました。

そのうち、恵那北中学校1年 繁穂 わかさんの「野菜のロス削減～わたしにできること～SDGs」と三郷小学校2年 下川 歩さんの「ぼくがたべものどこからきたのかな」が、東濃地区で推薦され、県の審査の対象になりました。